

※本稿は、三笠新聞(平成28年4月1日(金)発行 第29号)に投稿したものを艦船技術会のホームページ掲載用として一部追記したものです。

昨年11月末、公益財団法人「三笠保存会」が催行されました、「日本海海戦110周年米国訪問の旅(8日間)」に参加しましたので、艦船技術会会員の皆様に昨今の米国事情についてお知らせしたく、筆を執った次第です。

私自身、「三笠保存会」主催の研修旅行の参加は、3年前の英国訪問「三笠生誕の地を巡る旅」(24.11.7～11.12)に続いて2回目となります。今回は、戦艦「三笠」の建造造船所訪問、HMS ヴィクトリー研修、英国海軍所蔵の「三笠」に係る歴史的資料の閲覧など充実したツアーとなりました。一方、今回は、フランスでのISによるテロ後、他主要国に及ぶとの犯行声明もあったことから、研修内容は充実しているものの催行最低人数が果たして確保されるか大変心配しておりました。しかし、当会による研修旅行の募集奔走、また、通常では経験できない特別企画



修理中の USS コンスティテューション

に取り組み、今回幸運にも実現しましたことに対しまして当会事務局殿及びツアー参加の皆様には感謝しているところです。

さて、今回のツアーのポイントは大きく三つ、「USSコンスティテューション等の研修」、「米国独立発祥の地の歴史探訪」及び特別企画「米海軍兵学校研修及び国防総省訪問」です。紙片の都合上、その他行程については省かせていただき本順序に

従い綴っていきます。

まず、USSコンスティテューションを訪ねた際の体験を紹介します。この船は既に200年以上経過した木造帆船で、日本の「三笠」と英国の「ヴィクトリー」を併せて世界三大(海軍)記念艦と称されていますが、両艦とは違い航海可能な現役艦としては最古の戦艦です。研修当時は米海軍施設の乾ドックに入渠・改修中でしたが、現役海軍士官等の案内で上甲板から船底近くの倉庫区画まで巡ることができ、船殻補強、オーク材等甲板材料の切替等が丁寧に施され



係留中の戦艦マサチューセッツ

ている様子が見てとれました。また、フォール・リバーにある博物館近傍に係留中の戦艦「マサチューセッツ」等往年の戦艦についても海軍所属艦船として展示され、さらに、モスボール(予備役/長期保管)されている多数艦船をワシントンDCに向かう車窓から幸いにも確認することができ、其々が「海軍は常に国民と共にある。プレゼンスを顕示し、不



独立記念館

測の事態に対し万全に対処することを誓う！」というような強いメッセージを発しているように感じられました。

次に、独立宣言が署名された独立記念館を訪ねた際の体験を紹介します。独立宣言に銘文が使われたと言われ、長い亀裂が特徴的な「自由の鐘」及び独立宣言が署名された様子を再現した絵画、議場等を研修しました。特に、署名に係る議場の模様を描いた絵画(80号)を前にしてベテラン職員が



自由の鐘

当時を知る「かたりべ」として解説しつつ、絵画に見る様子、或いは独立宣言に関わる質問を来場者に投げかけたり、答えたりとコミュニケーションをとるディベート的なガイダンスに深く興味を覚えました。来場者は親子連れも多数見られ、自国の歴史・独立に関する関心の高さが伺われ、また、多民族・多文化国家としてスタートした米国には必須と思われる、独立の原点について知る生きた教材がそこにあるように感じられ、さらに、歴史を正しく理解するため、学校教育だけでなく家庭



独立宣言が署名された様子を描いた絵画

教育の中にあって国民として意識を高めるための重要な公共の教材として活用している姿に触れ、羨ましい思いすら覚えました。

最後に、海軍兵学校及び国防総省を訪ねた際の体験を紹介します。訪問の際には、海軍兵学校の海自交換士官、在米日本大使館付武官及び海軍作戦本部の海自連絡官の心のこもった御支援をいただきました。私自身20年ぶりの訪問でしたので、あまりの変わり様に驚き、変化の加速度を体感させられました。国防総省の訪問では、「グラウンド・ゼロ」と同様に、同時多発テロの被害を受けたペンタゴン施設内にある慰霊碑に手を合わせ又記帳させていただきました。関係者の御尽力で幸運にも前第七艦隊司令官を表敬訪問させて



国防総省(通称:ペンタゴン)



国防総省施設内の慰霊碑

いただいた際には当時のことを振り返られ、御自身は出張中で難は逃れたものの御友人が犠牲になったとのお話を伺いました。話をされながら視線は自室の窓の外へ。そこには、ゆるやかな曲線を描く丘陵に整然と建つアーリントンの白い墓標。多くの先人達、戦友、同僚の無念の思いを日々胸に精神を研ぎ澄まし勤務されている雰囲気を感じ取ることができた貴重な体験となりました。

以上、主要研修について綴って参りましたが、今回の研修旅行で特異な体験をしましたので番外編として一部始終を紹介させていただきます。

あれは、旅行3日目のボストン滞在の際に起こりました。当日は、アムトラックでニューヨーク(ペンシルベニア・ステーション)に移動するため、「1300 サウス・ステーション集合」の制約はあるものの約4~5時間の「ボストン市内の自由行動」を楽しむ予定でした。ホテルからとりあえず集合場所の駅まで行くこととなり、ワンボックスタクシー(9人乗り)にツアー参加の一部(私を含め8人)が乗り込みました。しばらくして、助手席に座っていた一人から「異臭がする。」との発声はありましたが、最後部に座っていた関係か全く感ぜず特に注意はしませんでした。また、駅に向う途中もこのタクシーのドライバー氏が車を道路の右端に寄せてドライバー氏側の左前輪をチェックしていた様子も「旧式バンで年季が入っているの少しガタがきているのかも…」と黙認してしまいました。思い返すと駅までの道程は、ドライバー氏だけが気付く「騙し騙し使う」領域であったのかもしれませんが。さて、何となく駅に到着。駅周辺のショッピングを希望されるグループと別れ、私は単身、かのドライバー氏運転のタクシー(助手席)に改めて乗車し、マサチュー



チャールズ川を臨む風景

セツ工科大学(MIT)を目指すこととなりました。なお、MITの研修を思い立ったのは、約40年前に海上自衛隊の技術幹部(私が知る2名の先輩)が短期留学されており、時代は変化するものの昔ながらの雰囲気はまだ残っているものと興味を持った所以です。

俄かに「ブレーキが利きにくい!車が左に流れる!」と顔を紅潮させ独り言のド

ライバー氏。片側2車線の右側を走行していますが徐々に左車線へ。後方車両からは注意喚起のクラクション。「(異臭が強くなった)何か起きる。」と直感、今後の対処(内外への緊急連絡、米国での一時入院等)について頭を巡らしていた矢先、「ガタン!ガタガタ…」と大きな音をたて前方左側に傾斜、と同時にタイヤ1本が車体を残して前方へ単独転がっている光景を目にしました。幸運にも車は他車に接触することなく減速しながらチャールズ川の遊歩道に沿って設置されている防護柵近くで停止することができ最悪の状況は回避されました。念のため引火等による二次被害を受けないよう直ちに降車、ドライバー氏の謝罪等を受けつつ、防護柵を越えて遊歩道へ待避した次第です。残念ながら、あと約2kmでMITに到着という地点での出来事でした。今回の貴重な体験で得た教訓としては、「万事何が起こるかわかりません。五感を働かせましょう。そして次の行動を準備しておきましょう。」でしょうか。



MITのどあるモニュメント

結びに当たり、今回研修した米国三大美術館のボストン美術館、メトロポリタン美術館及びその他研修については紙片の都合上割愛させていただきましたが、願わくはシカゴ美術館と共に再び訪問し米国三大美術館を全館踏破した上で、また、ワシントン海軍工廠(ネービーヤード)をリベンジ訪問した上で改めて旅行記作成にチャレンジしたいものです。最後になりますが、艦船技術会会員の皆様もいろいろな取り組み、チャレンジをされていらっしゃることでしょう。ホームページを会員相互の情報交換の場として活用いただければ幸いです。会員皆様のいろいろなジャンルの投稿に期待しているところです。

以上